

世論を広げ 核兵器廃絶の 早期実現を



高槻市役所前の平和行進（7月6日）

2021年国民平和行進は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、5月6日から各都道府県で、スタンディング宣伝・自治体要請・宣伝カーによる行進・オンライン発信など、「平和への思い」をつなぐ取り組みが行われています。6月30日には奈良県から大阪府に入り、7月7日に兵庫県へ引きつぎました。

8月に予定されているNPT再検討会議、原水爆禁止世界大会を節目に「日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める」署名を進めることが重要です。

最低賃金1500円に引き上げを



毎年6月に行う最賃デー宣伝

全労連の調査では、「25歳の単身者が普通に生活するためには、毎月23万円程度必要」とのデータが出ています。これを毎月150時間労働すると仮定した場合、時給約1500円となります。

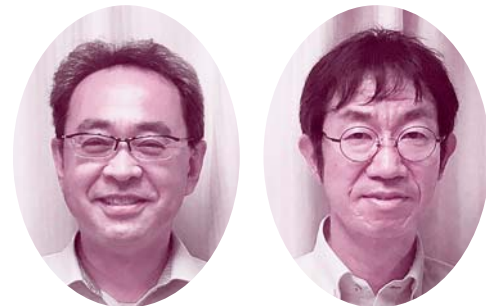
コロナ禍は日本だけでなく世界中の経済に影響を与えています。アメリカやフランス、ドイツでは賃金引き上げが行われています。個人消費を上げ、景気を回復すること、飲食店を含む中小事業者などへの援助を同時に行うことが必要です。

みんなが市職労を支えてくれている

枚方市職労

執行委員長 市本 逸也^{さん}(右)
(審査指導課)

書記長 三宅 武志^{さん}(左)
(東部清掃工場)



組合事務所の使用許可をめぐり、伏見隆枚方市長の不当労働行為とたたかいを続けている枚方市職労の仲間を取材しました。話していただいたのは市本委員長と三宅書記長です。

「コロナ禍だからこそ組合員に心を寄せて」

市本 コロナ禍が続く、現在も見通しがたつていません。だからこそ、組合員に心を寄せた活動を心がけています。
三宅 要求を控えるのではなく、言いたいこと、言うべきことを言えるようにしたい。心までリモートにならないようにと思っています。

市本 ワクチン接種が話題になっていきます。職場で接種に行きますが、職場に戻ることにあります。ワクチン接種とその後の体調管理が不安です。
三宅 どの職場も会話ができないほど忙しいです。ワクチン接種や、応援体制のことも検証が必要です。

「職員会館から退去せよ」伏見市長の通告に怒り

市本 2018年12月27日、市当局は「職員会館にある組合事務所の使用許可を取り消し、即刻、自主的に職員会館から退去されるよう、貴組合に求める」と通告してきました。緊急の執行委員会をオンラインで開きました。
三宅 執行委員みんなの怒りが伝わってきて、団結を強めてがんばろうと思ってきました。2019年1月4日、市職労は「組合事務所使用等に関する要求

書兼団体交渉申し入れ書」を伏見市長に提出しました。

平和運動は組合運動のバックボーン 市民要求運動にも参加してきた

三宅 市職労が「戦争法の廃止を求める統一署名」を取り組んだ時、伏見市長は「本市そのものの名誉を傷つける事態をもたらす恐れ」があるとして、組合活動の自粛を要請してきました。

市本 市職労は保育所民営化反対など、自らの要求と市民の要求を掲げて運動してきました。市職労を敵視するのは、組合と市民の共同を分断しようとしているからだと思います。



枚方市職労の4役会議（6月28日）

職員と市民の安全を守るために 職員不足の解消を急ぐこと

市本 各職場では人が足りません。とりわけ時間外保育士は募集しても集まらない。正職を含めて超過勤務での募集人数は保育士2名程度、全体でも45名程度。話になりません。

三宅 新採職員も先輩職員が指導するのですが、自分のことで精いっぱい、余裕をもって新採職員と接することがなかなかできません。健康で元気に働くためにも体制確保が大切です。

全職員の要求のかなめとして 76年間積み上げてきた運動がある

市本 大阪自治労連本部専従から枚方市職労に帰ってきたとき、私がいなかった間、職場の仲間が日刊ニュースを配ってくれていました。感激しました。

三宅 「労働者は集まって一緒にやっていたいかなアカンから」と言ってくれた組合員。頼みごとを快く引き受けてくれる。支えられていると思います。

市本 組合員の一人ひとりを大事にしたい。みんなの要求を実現するために声を挙げていきたい。市職労は全職員の要求のかなめです。